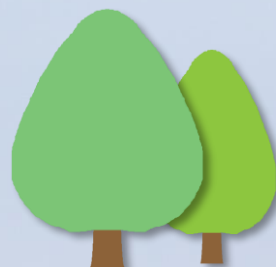


ウトナイ湖通信



No.256

2025 年9月号



ウトナイ湖にガンの群れがくる季節になりました。静かな湖畔が再びたくさんの渡り鳥の姿や鳴き声でにぎわいます。夏が終わり、早くも近づいている秋のウトナイ湖の自然をお楽しみください。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

9・10 月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

9月14日(日)10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10 名程度
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



野生動物に学ぶ救護セミナー『ヒグマのお話』

9月20日(土)10:00~12:00

- 定員:先着 30 名
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:事前申込制。9/3(水)~9/19(金)、電話受付



ウトナイ湖・秋の渡り鳥 DAY

10月13日(月・祝)



10:00~12:00

①講演会「ウトナイ湖のごみ、どこへ行く~マイクロプラスチックを見てみよう~」

- 定員:40 名程度(当日受付 10 名程度)
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)



ほかご家族で楽しめる体験コーナーを館内開催予定!

※①②の申込:
9/2(火)~10/12(日)に
電話で当センターへ

13:30~15:30

②体験会「eBird 体験講座~世界最大データベースを使った渡り鳥ウォッチング」

- 定員:先着 20 名
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 参加には eBird の事前登録が必要です。



登録の詳細はこちら

→→→→→



オオハクチョウの渡来日予想クイズ
9/2(火)~9/30(火)

センター備え付けの受付用紙に記入し、応募ボックスへ。渡来日を見事当てた方には抽選で野鳥グッズなどの景品をプレゼント!



市民ギャラリー

千歳写友会ネイチャーフォト写真展

会期:9月20日(金)~10月10日(金) 展示:千歳写友会

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前 9 時~午後 5 時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライングウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



ノビタキ

体重測定



身体検査中



明らかな外傷は認めなかったがしばらくは自力で立つことができなかった

体重 13 g

7月23日



リリース

原因：建物への衝突

市内にある建物に衝突し飛べずにいたところを保護される。

初診では明らかな外傷は認められなかったが、搬入してしばらくは、うつ伏せの姿勢で立つことができない状態だった。

保温、安静状態を保ち、経過観察を行なったところ、しだいに回復し、ケージの中で飛び回るようになる。同日のうちに放鳥した。

ノビタキ（スズメ目 ヒタキ科）

全長 13 cm。北海道では夏鳥です。成鳥のオスは胸のオレンジ色、頭部の黒色が、成鳥のメスは上面が黒褐色で淡褐色の縦斑が特徴的です。今回搬入されたのは、幼鳥の個体でした。全道の海岸草原、河川敷、農耕地などを生息地としており、ごく普通に観察することができる種です。昆虫やクモ類を捕食します。

トピックス



ボランティアフォローアップ研修 オタルマップ川で魚類調査

今回許可を得て魚類調査を行ない、調査の方法を学びました。レンジャーから調査方法のレクチャーを受けた後、魚類の捕獲をし、サイズを計測、種類とともに記録しました。「思った以上に様々な種類の魚がいることがわかった」といった感想が寄せられました。



ウトナイ湖で夏の生きものの探し

夏ならではのイベントを開催し、参加者は積極的にセスジイトンボやホザキシモツケといった昆虫や植物を探し、オリジナル図鑑に見つけた生きものを記録していました。「思っていたよりたくさんの生きものが見られて楽しかった」といった感想が寄せられました。



ボランティアコーナー

7/27に開催した「ボランティアフォローアップ研修」に参加された すぎやま さんにインタビューしました。

「ボランティアフォローアップ研修」に参加しようと思った理由はなんですか？

オタルマップ川は鉄分で赤みがかった色をしていて透明度が低く、どんな魚が生息しているのか普段から疑問に感じていました。今回の研修が魚類調査でしたので、好奇心から参加しました。

参加してみた感想を教えてください。

魚類調査は初めてで不安もありましたが、レンジャーさんの指導の下、参加者みんなで川に入り、魚を追い込んでタモ網を使用し魚を捕獲、計測するという貴重な経験をさせていただきました。川に入るのも数十年ぶりで童心に帰って楽しめました(笑)

印象に残ったことがあれば教えてください。

今回の魚類調査で、ヤマメ、ジュズカケハゼ、希少なドジョウなど多種多様な魚が生息していることを知りました。魚を餌にするカワセミなど鳥たちの貴重な食料になっており、種の多様性に驚かされました。野鳥の宝庫でもあるウトナイ湖の自然が維持保全されることの大切さを改めて感じました。



魚類調査の記録方法を学ぶ
すぎやま さん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー

【ウトナイ湖・クイズ】

ウトナイ湖の湖岸には、ヒシの実が打ち上げられています。この実は春と秋に見られる、ある渡り鳥が好んで食べるのですが、それは次の A～Cのうちどれでしょう。

A.タンチョウ

B.ミサゴ

C.ヒシクイ

※答えは最後のページにあります。



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook

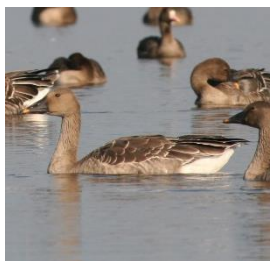


X



レンジャーのおすすめ自然情報

湖面では水鳥たちがにぎわい始め、観察路では草木の実が色づき始める季節がやってきました。暑さもおさまり自然観察がしやすいこの時期は、秋の渡りのシーズンでもあります。日本より北で子育てを終えたガンたちは、ウトナイ湖に立ち寄り、本州へ向かいます。ひと休みする鳥たちを優しく見守りながら、観察しましょう。



【ヒシクイ】

9月中旬頃から、ウトナイ湖で見られ始める旅鳥。水草の菱(ヒシ)を食べる為、菱喰。湖岸で打ち上がったヒシの実が見られる。



【マガン】

9月中下旬頃から、ウトナイ湖で見られ始める旅鳥。英語名は「白い額のガン(Greater White-fronted Goose)」。幼鳥にはない。



【ノブドウ】

つる性の植物。果実は青や紫などカラフルで目に鮮やか。果実の中にはハエの仲間などの幼虫がいることが多い。



【マムシグサ(コウライテンナンショウ)の実】
トウモロコシより大きい果実が、緑から順々に熟し赤くなる。有毒だが、イモムシが食べているのが見られた。

ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【秋】

秋のお薦めポイント

ロシア極東から渡ってきたマガンやヒシクイ、ハクチョウ類、カモ類が湖で水草などを食べたり、のんびりと休息している姿を見ることが出来ます。林の中はカラフルな木の実や紅葉で彩られ、シマリスなどが冬支度を始めています。

